（第２号様式）

令和４年４月 27 日

県立港北高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①新学習指導要領の主旨を踏まえ、生徒の特性等に応じた教育課程を編成し、適切に実施する。 ②社会の変化やニーズに対応し、生き抜くための資質・能力を養うため、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを推進する。 ③生徒会活動や学校行事等を充実させ、自主性・主体性・社会性を育成する。	①新学習指導要領による教育課程の定着をはかる。 ②「ICTを活用した授業力向上」をテーマとして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくりを積極的に推進する。 ③生徒会本部や各委員会との連携を密にする。また会議や行事の実施にICTを利活用し、スキル向上を図る。	①新学習指導要領における最初の学年移行となる1年から2年への科目選択にあたって、3年次での教育課程の展開をふまえ、生徒が適切な科目選択により、進路実現に結びつけるため。説明会・資料の充実を図り、理解を図る。 ②授業力向上研修会(4回)、研究授業(1回)、授業互見週間(2回)を通し、ICT の利活用について、組織的な授業改善を推進する。 ③生徒会本部を中心とした各種委員会の組織づくりを図る。googleMeet 等の利活用を進め、生徒会行事を活性化する。	①生徒が新学習指導要領に基づく教育課程の特長を理解しているか。 教員に旧課程との変更点が理解されているか。 ②各教科の自己評価、生徒による授業評価、ICT の利活用における教職員の意識行動調査に改善が見られたか。 ③生徒主体の活動により生徒が自己肯定感を得ることができたか。また、ICT を効果的に利活用できたか。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが安心・安全な学校生活を過ごせるよう、教育環境や支援体制の充実を図る。 ②部活動を通して、協調性・責任感・連帯感の涵養を図るとともに自発的な行動力を育成する。	①生徒理解を基本とした支援を実践し、生徒の基本的生活習慣の確立及び規範意識の醸成を目指す。 ②新型コロナウィルス感染予防対策を十分に講じた部活動指導・運営ができるよう支援する。	①生徒一人ひとりが基本的生活習慣や規範を意識し、心身共に安全で健康な学校生活を送るためのサポート体制を整備する。 ②生徒の健康面・安全面に配慮し、かつ生徒が主体的に部活動に取り組めるよう、活動環境の整備と内容の精選をする。	①生徒が必要な支援を受けることにより、課題解決に至るケースが増加したか。 ②部活動が効果的かつ円滑に実施できたか。
3	進路指導・支援	①3年間を見通した体系的なキャリア教育を実践し、生徒の自己実現力を高める。	①学年間で連動したキャリア教育を構築し、生徒が主体的に自らのキャリアプランを構想、実現でき	①各学年で企画・実践したキャリア教育の内容を全学年で共有する。校内模試や小論文講座等を効果的に活用する。	①キャリア教育の内容が進展したか。校内模試等について実施の前後を含めた計画が立てられ、実施できたか。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
		②生徒の個性や多様な進路希望に適した進路支援体制の充実、拡充を図る。	る力を育成する。 ②生徒の個性や多様な進路希望に対応したガイダンス体制を充実させる。	②進路情報の共有や研修会の実施により、校内の進路ガイダンス体制を充実させる。	②それぞれの生徒のニーズに応じた進路相談に対応できたか。
4	地域等との協働	①地域との連携・協働により、「開かれた学校づくり」を推進する。 ②保護者・地域への情報提供に努め、家庭・地域の支援体制を充実させる。	①学校行事や地域行事、地域防災等において、地域と連携した教育活動を実施する。 ②本校の教育活動について、学校HPにより積極的に情報を発信する。	①近隣の小中学校の行事や、地域防災活動等に生徒も含めて積極的に参加し、日常的な交流を図る。 ②閲覧しやすい学校HPの構築に努めるとともに、タイムリーかつ積極的に内容を更新する。また、生徒、保護者等の意見を取り入れ、内容を精選する。	①地域との連携、協働を推進することができたか。 ②閲覧しやすく、タイムリーな情報をHPに掲載することができたか。また、中学生の志願状況等に、学校HPの改善効果の波及がみられたか。
5	学校管理 学校運営	①学校運営協議会を活用しながら地域との連携・協働を推進し、地域とともに歩む学校づくりを推進する。 ②定期的に不祥事防止研修会を実施し、教職員の危機管理意識を高める。 ③生徒と向き合う時間を確保するために、教員の働き方改革を推進する。	①昨年度の学校運営評議会において指摘された課題を学校経営に活かす。 ②不祥事ゼロプログラムの取組を継続し、事故防止やハラスメントの根絶に努める。 ③業務の可視化、内容の精選を行い、生徒に十分な対応ができる学校づくりを目指す。	①新型コロナウィルス感染状況をふまえて、諸機関と連携し、学校教育の活性化を図る。 ②業務内容を絶えず検証し、特に個人情報の適切な取り扱い、人権意識の啓発を図る。 ③業務の可視化により、業務内容を整理し、生徒主体の教育活動が十分に図れるよう努める。	①検証課題を改善し、より具体的な学校教育の活性化に結びつけることができたか。 ②事故、不祥事に対する当事者意識を高め、未然防止に努めることができたか。 ③業務内容の見直しを具体的に進め、教育活動の活性化に結びつけることができたか。